

XIV 新型コロナウイルス感染症流行禍における職員のメンタルサポートチーム



2020年1月15日、新型コロナウイルス感染症の症例が日本において初めて確認された。以降、症例数は漸増し3月中旬には海外からの輸入例を契機とした流行がさらに拡大し、4月7日緊急事態宣言へとつながった。全国の医療機関において、当院と同様に感染症患者の受け入れや発熱外来の設置など、医療機関として感染症災害に対する活動が行われている。しかし、新型コロナウイルス感染症は潜伏期間が不明瞭であることや、無症状で感染する可能性、医療体制や病床の不足が報告され、国全体に大きな不安をもたらした。さらにはソーシャルメディアなどでの（誤）情報の氾濫という、独特な「情報伝染病、インフォデミック」が、危機的状況の中で、精神衛生に大きな危険をもたらしている[1]。これは現在においても持続した状況であり、恐怖と不確実性を懸念し、更に恐怖や不安により情報の誤認を招くといった感情的な負の連鎖反応が引き起こされている。企業の産業保健においても多大な影響を及ぼし、当院のような医療機関においては、従業員の健康維持・リスク回避の観点から、メンタルサポートを充実させる必要があると思われた。

このような事態を背景にして、2020年4月30日、保健管理センター、看護部、職員相談室、精神科神経科学講座の協力のもと、保健師1名（保健管理センター）、公認心理師1名（職員相談室）、精神科医兼産業医1名（精神科神経科学講座）、看護師2名（看護部）による「コロナ禍におけるメンタルサポートチーム」の設置に至った。医療機関という特性も踏まえて、心理的ストレスが大きいと予測される感染症患者の診療に携わる前線の医療従事者[2]のみならず、産業保健という観点・立場から当法人の全教職員を対象にメンタルサポートを行う目的で活動を続けている。

XIV-1 新人看護師へのアンケート調査

感染症災害における一般の医療従事者のメンタルヘルスの危険因子として、①若年者または女性、②社会的支援の欠如、孤立、スティグマなど「社会的要因」、③リスクの高い環境での勤務、看護師、専門的トレーニングや職務経験が少ないことなど「職業的要因」という報告がある。仕事に対する調査、コーピング尺度、精神的回復尺度、バーンアウト尺度を使用しアンケートを実施、ストレスの数値が高い職員には看護部より声をかけを行い、必要時は保健管理室へ相談するようになっている。

XIV-2 活動の基本方針

メンタルヘルスケアの啓蒙活動など、感染症対策に対応した一般的な産業衛生でのメンタルヘルス対策の拡充を活動の基本方針と据えた。

①全従業員に向け感染症災害時の健康維持活動、②管理職員に向け感染症災害時の職場での配慮事項、③未知の感染症からの心理的影響「3つの感染症」、④新型コロナウイルス感染症災害時における特有の心理的ストレスとその気づき、といった内容の情報を提供し、学内ネットに去年度より継続して掲載した。

個別対応が必要な教職員のことを考慮し、同時にコロナメンタルサポート相談室を設置した。ポスターを作成・掲示し、全職員に存在を通知した。職員が新型コロナウイルス感染症に罹患した場合や濃厚接触者になった場合には、利用の有無に関わらず「相談できる場所がある」と安心していただけると考えている。

XIV-3 看護部との連携

当大学の看護において、病床配置の変更や新人研修自粛など、例年の看護業務に加えての心理的ストレスや、ピアサポートなどの支援内容の減少など間接的な影響も考えられた。そのため若手看護師をはじめとする看護業務への影響を考慮し、看護部との連携の中で新人研修や復職支援に関して情報交換・共有をはかっている。

XIV-4 最後に

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、学校が休校・休園が続き、院内でのクラスター化や家庭内感染の増大など新型コロナウイルス感染症の変異により、社会活動が機能低下し2021年は暗中模索の一年であった。チームとしては継続して健康維持活動を唱えてきた。

- ・職員が通常業務に加えて新型コロナウイルス感染症患者の対応を行うこととなり業務負担が増え、また職員で陽性者や濃厚接触者となり出勤停止になる職員が多くなり、残った職員はさらに過酷な労働環境を強いられたことによるストレス
- ・クラスター病棟での職員のメンタルヘルスの問題
- ・新人看護師のアンケート調査で、職場内感染の危険と隣り合わせの環境のなか、精神的な不安やストレスを感じる職員が多い結果

コロナ禍によるメンタルヘルスの問題が表面化しており、燃え尽き症候群や抑うつ症状、喫煙、飲酒または問題行動の増加等注意する必要がある。このような二次的・慢性的な影響を念頭に、当チームの活動を継続しながら対応・支援策を模索していきたいと考えている。

まだ支援が行き届いていない領域も有ると思うが、今後とも、ご支援・ご協力のほどお願い申し上げたい。